

令和元年度 学校自己評価表 (計画段階 **実行段階**)

福岡県立嘉穂高等学校

88

学校経営計画 (4月)				評価 (3月)		
学校運営方針		校訓「質実剛健」「自主創造」に掲げる精神に基づき、心身ともに逞しく文武両道を身につけ、氣高さを追求する豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。				
昨年度の成果と課題		今年度重点目標		具体的目標		
校訓に掲げる精神を踏まえ、嘉穂高生としての自覚と「氣高さ」を身につけた生徒の育成が実現できた。 新たな学びを取り入れた授業改善をさらに充実させることで、生徒の学力向上と希望する進路の実現を図る。 歴史と伝統を踏まえ、中高一貫教育校としての新たな文化を創造し、地域の期待に応える人材育成を実践する。		新たな学びの推進と生徒の個性や能力を伸長する丁寧な指導により、生徒の進路実現に向けた支援を充実する。		主体的・対話的で深い学びやICTを用いた授業を展開し、生徒の探究心を育てる。 ガイダンス機能を充実させることで、生徒が主体的に明確な進路選択を行い、希望する進路への実現を目指させる。		
		指導と評価の一体化により、生徒の意欲を引き出す授業改善を図る。		授業を計画、実施した後の評価を次に生かすことで、指導と評価の一体化を図り、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。		
		文武両道の教育活動を推進し、広報することで、地域に根ざし、地域に信頼される学校文化の創造を図る。		文武両道の精神を重んじ、学習や部活動、学校行事での生徒の活躍を地域に広報し、地域の本校への期待と信頼を確かなものとする。		
		中高一貫キャリアプログラム「嘉穂Dream Compass」を軸として、地域と世界に目を向けたグローバル人材の育成を推進する。		地元の自治体、企業や大学等と連携を図り、広い視野に立って考える力やコミュニケーション能力を養い、将来国内外で活躍できる人材を育成する。		
				A		
評価項目	具体的目標	具体的方針	評価 (3月)		次年度の主な課題	
新たな学びの推進と生徒の進路実現に向けた支援	生徒の探究心の育成	授業改善の推進	デジタル教材の活用、アクティブラーニング等の授業方法の研究を推進するとともに、その実践を通して生徒が身につけた資質・能力の適切な評価方法を検討、実施する。	A	デジタル教材をさらに活用すると共に、アクティブラーニングの推進による生徒の自学力を向上させる為の授業改善を図る。	
		「知る」「深める」「発する」スキルの育成	企業等との連携した探究活動を行いながら、生徒の複眼的思考力を育て、情報編集のスキルを向上させるとともに、発信する力を養う。	B		
	計画的な研修体制の確立	中高一貫教育や高大連携、入試改革など喫緊の教育課題をテーマとする職員研修を年間4回以上実施する。	B			
生徒の進路意識の高揚	社会に貢献する自己実現を図る指導の工夫	進路講演会や進路ホームルームを通して、これからの社会での自己の生き方あり方を考えさせる。	A	A	大学入試の変更に伴う「生徒に求められる力」が身に付く効果的な授業と課外授業、特別講座、補習のあり方を検討し、生徒の進路実現につなげる。 生徒の進路目標達成に向けたチームとしての組織的指導体制の構築を図る。	
		課外授業、進路別講座や模擬試験の適切な企画・運営や、自学支援プログラムの活用を通して、生徒の第一進路希望実現に向けて確かな学力を身につけさせる。	B			
		適切な進路情報の提供を行い、生徒と保護者の進路意識を高める。	A			
指導と評価の一体化	生徒の学習意欲喚起・授業改善	生徒の学習活動を助けるフィードバック	担任による個別ガイダンスの充実や、生徒の学習状況のフィードバックや、保護者との情報の共有化を図る。	B	B	適切な観点別評価に基づいた指導と評価のあり方を見直すことで授業改善を図る。 来年度、全普通教室に配置される電子黒板をはじめとしたICTの積極的な活用により、授業の質の向上を図る。
		授業研究による指導内容と評価の一体化の推進	授業におけるめあての重点化、明確化や観点別評価による学習成果や課題の把握、改善等を行い、PDCAサイクルによる授業改善を図る。	A		
			ICTを活用した授業の支援・調査・研修を実施する。	B		

	評価項目	具体的目標	具体的方針	評価（3月）		次年度の主な課題
文武両道の教育活動の情報発信	文の育成	自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成	予習、授業、復習の学習サイクルを定着させ、主体的に学ぼうとする姿勢を涵養する。	A	A	オンライン学習を有効に活用しながら、自発的な学習態度の醸成を図る。
	武の育成	嘉徳高生としての自覚と誇りを持った生徒の育成	儀式や集会において規律や礼節を重んじ、気高さや品格に満ちた態度を養うとともに、生徒会を中心に潤陵祭・大運動会等の学校行事の企画・運営を行うことで自治意識を養う。	B	A	創立120周年に向け、生徒の主体性をより引き出した学校行事や生徒会活動を展開する。
		たくましさや自立心を身につけた生徒の育成	部活動の更なる活性化を図り、「文武両道」の実践と心身の健全な育成を推進する。	A		
	学校広報	P T Aや地域社会と連携した教育活動の活発化	PTAの各委員会活動や学校評議委員会、学校関係者評価委員会を通して、地域の声を取り入れ、学校教育に活かす。	A	A	PTA各委員会活動の内容の精選を行い、効率性を高める。部活動の大会実績の発信は月一回のペースを目標に行う。
積極的な広報活動		「部活動大会実績」「大学合格実績」「学校行事」等をリーフレットやHPによる広報媒体を通じて、学校の活動状況を中学校・学習塾・地域へ積極的に発信する。	A			
嘉徳 DreamCompassの充実	科学・情報プログラム・グローバルプログラムの充実	科学技術系人材の育成	地域の科学・情報技術産業との連携や研修、大学の講義や実習を通して、生徒の興味関心を広げ、探究する姿勢を養う。	B	B	新たに海外研修や留学の補助などの取り組みを行い、一定の効果は得られたものの、科学技術に関する取り組みには不十分であった。事業のバランスを見直す。
		グローバルマインドの育成	地域や日本社会が抱える問題に目を向け、その背景や原因を探る機会となる講演や講義を実施するとともに、海外研修や異文化交流等の体験活動を通して視野を広げる。	A		
生徒支援の充実	生徒支援の充実	生徒の心の健康と自己管理の支援	スクールカウンセラーによるカウンセリングを年に9回実施し、生徒・保護者の心の健康をサポートする。	A	A	エンカウンターの手法を取り入れた集団づくりの研究を進め、特に不登校傾向の生徒に対しての支援体制の一層の強化を図る。
			面談により生徒の個々の理解を深め、教員との信頼関係を築き、問題を抱えた生徒への対応を迅速に行う。	A		
	自殺・いじめ防止	自他の人権や生命を尊重する生徒の育成	特別な教育的支援を必要とする生徒に対して、特別支援コーディネーターや養護教諭、スクールカウンセラー等としっかり連携しながら、あらゆる教育活動場面で計画的に合理的配慮を行う。	A	A	
			規範意識育成講演会等で啓発を行い、いじめアンケート実施に基づく初期対応を迅速に行う。	A		
職員研修により職員の人権感覚を高めると共に年4回の人権教育授業やホームルーム活動はもとより、学校教育全般において自他の人権を尊重する意識や態度を育成する。	A					